

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



11月号 発行 平成27年11月26日

## 第13回うつくしま育樹祭が 開催されました！

11月7日(土)、いわき市フラワーセンターにおいて、第13回うつくしま育樹祭が開催されました。

うつくしま育樹祭は、県民一人ひとりに緑の大切さを再認識していただくとともに、森林(もり)に親しむことで「心にやすらぎ」や「心の拠り所」としての緑を感じ、うつくしい故郷「ふくしま」を一日も早く取り戻せるよう、県民が一堂に会した交流の場となることを目的に開催されました。

今回は、平成30年の第69回全国植樹祭の本県開催決定を記念するイベントでもあり、県内各地から約300名が参加しました。

苗木の寄贈セレモニーでは、鳥取県の小学生が本県のドングリから育てた苗木を、綴秋山緑の少年団(いわき市立綴小学校)が受け取り、育樹祭の中で植樹しました。

そして、参加者は、各班に分かれて、枝打ちや除伐の育樹活動、寄贈された苗木の植樹活動を行いました。午後からは、森の貯金箱づくりや竹箒づくり、鋸の目立ての実演などの交流イベントが行われ、多くの方々が緑や森林に親しむ一日を過ごしていました。



(育樹活動(除伐)の様子)



(交流イベント(竹箒づくり)の様子)  
(森林林業部)

## 「いわきの今を見に行く！モニター バスツアー」を実施しました！

10月24日(土)、31日(土)、いわき地方振興局、水産事務所、水産試験場、いわき農林事務所の4機関が共同で「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を実施しました。

このバスツアーは首都圏大学生を対象とし、福島県の農林水産物の安全・安心の取組や復興状況等を直に見てもらうことで正確な情報を発信して風評の払拭につなげていくことをねらいとしており、今年度で3年目になります。

サンシャイントマトを生産しているあかい菜園(株)、米の全量全袋検査をしているJAいわき中部渡辺倉庫の見学をした後、いわき・ら・ら・ミュウで昼食及び放射線に関する基礎講座を受け、最後にアクアマリンふくしまを見学しました。

参加者からは、「出荷されている福島県産農産物は安全だと納得できた」、「帰宅したら福島のことを友人や家族に教えたい」といった意見がありました。



(あかい菜園(株)にて)



(アクアマリンふくしまを背景に記念写真)  
(企画部)

**皇太子同妃両殿下が  
とまとランドいわきを  
ご視察になりました！**

10月8日（木）に、皇太子同妃両殿下がいわき市をご訪問され、四倉町の（有）とまとランドいわきをご視察になりました。

鯨岡千春代表取締役と元木寛専務取締役が震災当時の状況や風評払拭に向けた取組をご説明し、両殿下は震災のお見舞いと復興に向けて頑張っている姿にねぎらいの言葉をおかけになりました。

その後、両殿下はトマトの栽培温室をご視察になりました。元木専務取締役に栽培の工夫や生産規模などをご質問されるなど、熱心にお聞きになられ、トマトの収穫も体験されました。

また、後日、とまとランドいわきで収穫されたトマトをお召し上がりになり、甘味があり、とても美味しかったとのご感想を述べられたことが伝えられました。

今回の皇太子同妃両殿下のご訪問は、とまとランドいわきの皆さんをはじめ、地域においても大きな励みとなりました。



（両殿下をお迎える鯨岡代表取締役）



（栽培温室をご視察になる両殿下）  
（農業振興普及部）



**ふくしまおさかな  
フェスティバルinいわき**

11月8日（日）、いわき市小名浜字辰巳町の小名浜魚市場において、県主催の「おさかなフェスティバルinいわき」が開催されました。

当日は、強い雨が降っていたにもかかわらず、約5,000人が来場し賑わいました。

本イベントは、試験操業や沖合漁業で獲れた新鮮で美味しい魚介類を来場者にPRするとともに、試食や販売を通じて実際に味わってもらい、地元産の魚介類の消費拡大に繋げようとする目的で開催されたものです。

福島県漁業協同組合連合会をはじめ、地元漁協や仲買業者の協力の下、試験操業で獲れた魚介類の販売、メヒカリの唐揚げやサンマのつみれ汁の試食、子ども達を対象としたサンマのつかみ取りなどが行われました。各コーナーとも長蛇の列が出来る盛況ぶりで、販売では、開会30分前には行列が出来ていました。

この他、本イベントでは、水産試験場の「参観デー」が同時開催され、調査船いわき丸の見学やホシガレイの稚魚放流、研究成果のパネル展示、放射能に関する講演なども行われました。講演においては、いわきの漁業者からも漁業の現状や復興に向けた思いなどが話され、来場した方々からは応援の声も聞かれました。



（試験操業漁獲物の販売コーナー）



（漁協女性部によるサンマのつみれ汁試食）  
（水産事務所）

**「第46回東北農村青年会議秋田大会（平成27年度全国農業青年交換大会）」が開催されました！**

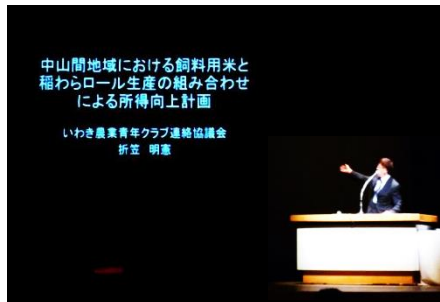
10月29日（木）～30日（金）の2日間、秋田県秋田市の秋田県民会館において、第46回東北農村青年会議秋田大会（平成27年度全国農業青年交換大会）が開催されました。

大会では、県代表として、いわき農業青年クラブ連絡協議会の折笠明憲副会長がプロジェクト発表、蛭田秀史副会長が意見発表に、それぞれ出場しました。

折笠氏は、中山間地域における水田を活用した所得向上対策をテーマに、飼料用米の作付と稲わらロール販売の取組について発表しました。

蛭田氏は、就農から今までの営農経験や苦労したことをもとに、生産者による農産物価格の決定の可能性や地域のアイデア創出による加工品の取組など、将来の展望や経営改善等について発表しました。

出場した2名は、惜しくも上位入賞を逃しましたが、各県の素晴らしい取組を学ぶとともに、多くの青年農業者と交流を深めることができた様子で、有意義な大会となりました。



（中山間地域の取組について発表中の折笠氏）



（将来の展望等を発表する蛭田氏）  
（農業振興普及部）



**「みずほの森プロジェクト」植林活動が行われました！**

10月31日（土）、いわき市平下大越地内の海岸において、（株）みずほフィナンシャルグループによる企業の森づくりの植林活動が行われました。

この活動は、震災による津波で被害を受けた海岸防災林を再生するため、同グループが、いわき市、地元下大越山林共有組合及び福島県の4者により締結した「企業の森林（もり）づくり協定」に基づいて実施されています。昨年11月以降、2回実施しており、これまで約1ヘクタールの植林を行っています。

当日は、東京や仙台方面、県内から約150名が参集し、地元の方と一緒に植林を行いました。

今回の作業でクロマツの苗を約0.5ヘクタール植林し、協定区域内の植林は完了となりました。

作業後、参加者らは一面に植林された現地を、汗をぬぐいながら満足げに眺めていました。

来年以降は、植林した区域の下刈り作業等を実施していく予定です。



（植樹の様子）



（今回の作業により植林作業は完了しました）  
（森林林業部）

## 第2回「いわき野菜deベジスイーツ」が開催されました！

10月18日（日）、いわき農林事務所といわき市見せる課が後援するJAいわき市直売所新鮮やさい館主催の第2回「いわき野菜deベジスイーツ」が開催されました。

今年度2回目となるいわき市産の野菜を使ったスイーツ作り体験は、生産者を含め、総勢30名の参加となり、大盛況となりました。

講師を務められた野菜ソムリエの木下麻美さんから、当日スイーツ作りに使用する野菜のかぼちゃに関するマメ知識をお話いただいたあと、「ハロウィン」をテーマにしたスイーツ作りを体験していただきました。

スイーツ作りは、さつまいもや枝豆を使った3種類のモンブランを作ったほか、パンプキンチーズケーキや里芋のショコラ、フライドさつま、ミニトマト飴など、さまざまなスイーツを作りました。完成したスイーツは、一緒につくった親ばかともとジュースとともに、各自デコレーションを工夫し、オリジナルのスイーツプレート作りを楽しみました。

特に、ミニトマト飴は大好評で、一人で何本もおかわりするお子さんもいました。

次回は、12月に「クリスマス」をテーマに開催予定です。



(全員集合！)



(完成！どれもおいしそう！)  
(農業振興普及部)

## 「第18回福島県森林組合連合会良質材展示会」が開催されました！

10月19日（月）、遠野町のいわき木材流通センターにおいて、第18回福島県森林組合連合会良質材展示会が開催されました。

今回の展示会は、県内から100点の出品があり、10月8日（木）に行われた審査会で入賞した8点を中心に展示されました。

いわき市からは、磐城林業協同組合が関東森林管理局長賞、田子英司さんが福島県木材協同組合連合会長賞、磐城造林(株)と遠野興産(株)が福島県森林組合連合会長賞を受賞されました。

なお、出材については、9月の長雨等の影響による出材減少が懸念されましたが、10月に入ってから好天が続いたこともあり、前年を上回る出材となりました。



(展示会の様子)

(森林林業部)

## 郷土食・伝統食料理 試食体験を実施しました！

10月24日（土）、いわき市中央台公民館において、いわき地区生活研究グループ連絡協議会主催による郷土食・伝統食の料理試食体験が実施されました。

いわき地区生活研究グループ連絡協議会は、いわき市内の女性農業者で組織されている団体で、今回はいわき地方で昔から作られている郷土食や伝統食と呼ばれる料理を、若い世代に伝承することを目的に開催しました。

当日は、市内在住の2歳から12歳の子供連れの親子7組20名が、生活研究グループ員の指導のもと、こんにやく芋からつくる「生ずりこんにやく」と小豆粥に団子を入れた「大師の粥」作りに取り組みました。

特に、こんにやく芋からのこんにやく作りは、参加者全員初めての体験だったようで「びっくりした」、「美味しかった

た」、「また食べてみたい」と好評でした。

指導に当たった生活研究グループ員は、子供達が喜んで料理に取り組む様子や食べて美味しいとの感想を見聞きして、地元の農産物を使った郷土食や伝統食を継承していくことの大切さを強く感じていたようでした。



(生活研究グループ員とこんにやく作りに取り組む親子)

(農業振興普及部)

### 第54回福島県優良木材 展示会が開催されました！

10月29日(木)、内郷綴町の(株)平木材市場において、第54回福島県優良木材展示会が開催されました。

優良木材展示会は、福島県木材協同組合連合会と(株)平木材市場が主催となり、素材の取引が活性化するこの時期に毎年開催されています。今年も、製材業者を中心に県内外から多くの買方(購入者)が優良材を求めて集まりました。

展示会には、当初の予想を上回る素材約3,000m<sup>3</sup>のほか、製品約1,000m<sup>3</sup>が入荷し、活気のある競りにより出材した材は完売となりました。

価格は、一般材丸太が前月比で1m<sup>3</sup>当たり1,000円程度上昇し、夏場に急落した相場の回復基調が続いていることが伺えました。

今後も順調な出材につながることを期待されます。



(競りの様子)

(森林林業部)



### 草野小「田んぼの学校」 実りの秋♪収穫の秋！

10月21日(水)、平下神谷地区において、「田んぼの学校」が行われ、いわき市立草野小学校5年生児童約80名が稲刈りに挑戦しました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習です。

同校で25年間に渡り農業体験学習に取り組んでいる富岡正治(まさはる)さんをはじめとした地元協力農家の方々や保護者の方々の協力もいただきながら、児童たちは元気いっぱい稲刈りに取り組みました。

開会式では、富岡さんより「8月中旬からの低温・日照不足や台風による影響があり、稲にとって厳しい環境ではありましたが、雨風にも負けず大きく成長してくれました」と稲の成育について説明があり、児童たちは自分たちで植えた時の青々とした小さな苗を思い出しながら説明を聞いているようでした。

刈り取った稲は、保護者の方々により藁で結束された後、児童は田んぼの中に立てた稲木に天日干しする「はせがけ」も体験しました。1時間半ほどで全ての作業が終了し、最後に地元農家の方が使用しているコンバインによる刈り取り風景を見学し、その作業の速さに驚いた様子でした。

今回収穫した米(マンゲツモチ)は、11月14日(土)に開催された子ども秋祭り(収穫祭)において、児童らと保護者による餅つき用に利用され、全員で美味しく味わいました。



(富岡さんからの稲刈りの説明)

(農村整備部)



## いわき地方の農林水産物 モニタリング検査結果

### 農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の10月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

（表1）農林畜産物の検査結果（10月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
	4品目（※1）			
17品目	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	21品目
39検体	4検体	11検体	0検体	54検体

※1:ユズ、クリ、小豆、くるみ

検査した21品目54検体のうち、17品目39検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

（表2）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ネギ 3、葉ネギ(施設) 1、ハクサイ 2、キウイフルーツ 1、サツマイモ 3、ナガイモ 2、サトイモ 1、ニンジン 1、ダイコン 1、菌床しいたけ(施設) 6、菌床なめこ(施設) 3、エリンギ(施設) 1、原木しいたけ(施設) 2、大豆 1、秋そば 1、牛肉 6、原乳 4

なお、ユズ、クリ、小豆、くるみについては、それぞれ6検体、3検体、1検体、1検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

品名	検体数	内訳	
		100ベクレル以下	検出限界値以下
ユズ	7	6 (最大値14ベクレル/kg)	1
クリ	4	3 (最大値61ベクレル/kg)	1
小豆	2	1 (4.5ベクレル/kg)	1
くるみ	2	1 (23ベクレル/kg)	1

10月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

（表4）出荷制限及び出荷自粛品目（10月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (7品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ(野生のものに限る)
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
畜産物	—	
出荷自粛 (1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

(企画部)

### 海産魚介類の検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

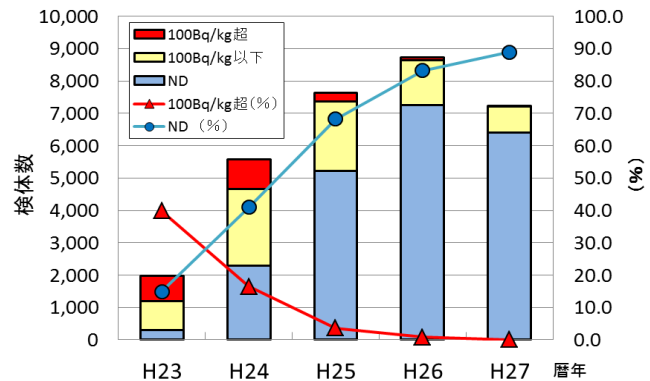
平成27年1～10月までに放射性セシウムの食品としての基準値100ベクレル/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。

なお、3月7日以降に採取された海産魚介類で基準値の100ベクレル/kgを超えたものはありませんでした。

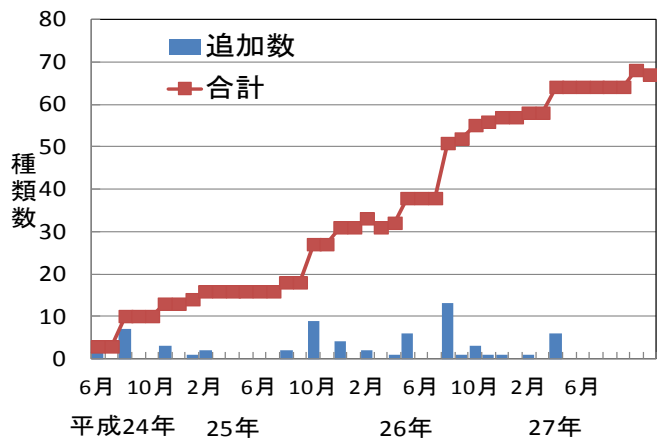
モニタリング検査結果により安全が確認された魚介類を対象に試験操業が行われ、平成27年11月現在、67種類の海産魚介類が試験操業の対象種となっています。

(平成23年以降のモニタリング検体数と割合)

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	799	6,404	7,207
	割合(%)	0.1	11.1	88.9	100.0
計	検体数	2,065	7,598	21,459	31,122
	割合(%)	6.6	24.4	69.0	100.0



(※採取年月日で集計)  
(試験操業対象種数)



(水産事務所)

## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(12月は8日(火))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

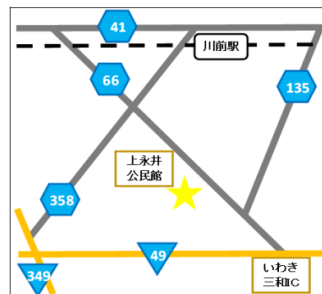
なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。  
また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

### ○ いわき高原処農家そば屋(三和町上永井字大平田164)

- ・地産地消メニュー:天ぷらそば
- ・説明:秋そばをはじめ、ピーマン、インゲン等の天ぷら、大根や白菜の漬物等も地元三和町産を使用しています。  
※ 土日祝日のみ営業。12月から3月まで冬季休業となります。
- ・店舗の電話番号:0246-87-2240
- ・店舗の料理写真



(地図)



### ○ 惣菜&レストラン吉福(平字東町5-1)

- ・地産地消メニュー:惣菜
- ・説明:やわらかいので、シルバー世代にも人気なゆず大根をはじめ、惣菜・べんとうグランプリ2015で入選を果たしたとまとコロッケなど、約40種類の惣菜にいわき産野菜をできるだけ多く使用しています。
- ・店舗からの情報:12月5日(土)、19日(土)に朝市・フリーマーケットを行います。また、5日(土)は9時から13時までシルバー世代を対象にした認知症カフェも行います。ご興味がある方や参加されたい方は、吉福までご連絡ください。
- ・店舗の電話番号:0246-22-0886
- ・店舗の料理写真



(地図)



いわきの情報をお知らせします！

## 福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)  
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp  
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

いわき農林事務所

検索

### いわきの「蕎麦(そば)」をご紹介します!

#### いわき市内の そば栽培の歴史

そばの栽培は、昔から全国の山間部で行われていましたが、明治以降、次第に栽培地が少なくなったと言われています。川前地区においては、平成7年に中山間地域の活性化対策等を目的に実施した試験的なそばの栽培を契機に、本格的なそばの栽培が始まりました。平成8年には、三和町の永井地区等でも栽培が始まり、水田の転換作物として徐々に市内で栽培されるようになりました。いわき市内のそばの栽培状況は、作付面積23ha、収穫量5tと、まだ小規模ですが、川前地区や三和地区のほか、田人町の荷路夫(にちぶ)地区などでも栽培されています。



#### そばの品種と 収穫時期



市内で栽培されているそばの品種は、「会津のかおり」と「在来種」ですが、ほとんどが福島県が開発したオリジナル品種「会津のかおり」です。「会津のかおり」は、県内で栽培しやすく、よりおいしいそばを生産するため、県と生産者等関係者の協力のもと、5年の歳月をかけて作り上げた品種です。市内のそばの収穫時期は、10月～11月頃です。「会津のかおり」は、香りや味、そばにしたときののどごしなど、食味が優れています。また、水の浸透性が良く、製麺時に延ばしても生地が割れが少ないなど麺加工にも適しています。そば栽培が行われている三和地区や川前地区には、「会津のかおり」を使用したそばを味わえる店舗もあります。新そばが味わえるこの時期に、「会津のかおり」のそばを探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報  
(1) モニタリング情報検索  
(2) 出荷制限等一覧表



「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース